

平成 28 年度 自治会懇談会（荒井・信夫）

○日 時：平成 29 年 2 月 13 日（月） 18：30～20：00

○場 所：福島西学習センター

○出席者：6 人

○質疑応答

1	道の駅の運営はどうなるのか。	村、三重県の植物園、までい企業組合、深谷の住民でつくった「までいガーデンビレッジいいたて」が経営する。8 月 11 日にオープニングセレモニー、8 月 12 日からスタート。セブンイレブンが入る。地元の農産物等の商品を置くことも可。ただ、スペースが狭いことや、コンビニと競合しないこと、質の良いものを選ぶなど、多少の制約はあるかもしれない。
2	農業高校側に植える花は、販売するのか観賞用なのか。誰が作って管理するのが問われるのではないか。	綺麗にしたいが当面はひまわりになりそう。湿地なので土盛りをしなければならず、そのため地権者境界を記録しなければならないので時間を要す。うまくいかないこともあるだろうが、何かを始めなければならない。
3	帰村後、水道代はどうなるのか。	考えている最中。電気料よりは厳しくないと思う。農業集落排水も同様だが、料金設定は帰村状況を見てからになると思う。
4	モニタリングポストを増やす予定は。	ない。
5	消防団は今後どうなるか。	現在、定員 265 人のところ 216 人くらい登録されている。上部団体への負担金や保険料がかかるので、人数は少なくしなければと思っている。とりあえずは現状のまま。
6	行政区の見直しはするのか。	今のところは元のまま。
7	これまで行政区単位でやっていた草刈りなどの環境整備はどうなるか。	これからは大変になると思うので、たとえば牧野や集会所の賠償金を使ってもらいたい。どうするかは行政区によ

		って異なると思う。
8	個人宅の除雪は大変になると思うが。	お助けあい事業を復活させたい。お手伝いできる人の名簿を作って、やってもらったときは村から謝礼を出す。
9	農業の4分の3補助はできたが、村外で既に始めている人もおり、そういう人にも継続的に支援をしてほしい。	4分の3補助は、帰宅困難区域の長泥地区の方については、村外で始めても補助が出る。
10	復興交付金を使った事業はいつまでできるのか。	最長あと4年ではないか。
11	帰還者数は把握しているのか。	そうした調査を実施するつもりはない。今は長期宿泊の登録者数だけ。帰還をせかしたり、強要するのは違うと思う。帰還者の目標を掲げるようなことは考えない。
12	フレコンバッグがなくなる見通しは。	村には230万個ある。3割は蕨平で燃やし、残りは中間貯蔵施設に持っていく。国は、5年で70%を中間貯蔵施設に持っていくと言っている。ということは、5年でも全部はなくならないということ。村からは、フレコンバッグの多い飯舘から優先的に運んでもらえるよう要望している。
13	営農再開しない農地は荒れてくると思うが、どうするのか。村で今後どこを農地にするか、計画をつくって決めないとだめではないか。	営農再開支援事業がいつまで続くかということがある。農地管理組合のようなものをつくってやる必要もあるかと思う。それも草刈りなどの手入れのみになる。管理できるのは基盤整備した田くらいでないか。奥の方の農地は森林に戻すしかないのではないか。
14	あぶくま開発でだいぶ草地を広げたが、消えてくのか。やっとお金を払ったのに。	基盤整備をした田しか手立てがないだろうと思う。以前から鹿沼市のモデル事業を視察して勉強をしてきているが、村全体規模で行うのは難しい。
15	今後、宿舎を退去したときに、荒井・信夫住宅飯舘自治会の名前を使っているのか。	構わない。村の補助で同窓会をやってもらっていい。